

地方都市における身近な生活空間の環境整備計画*

ー徳島県阿南市におけるケーススタディーー

Environment Planning for Daily Life Space in Local City

ー Case Study at Anan City, Tokushima Pref. ー

松永昭博** , 澤田俊明*** , 山中英生**** , 篠原明広*****

By Akihiro MATSUNAGA, Toshiaki SAWADA, Hideo YAMANAKA, Akihiro SHINOHARA

1. はじめに

近年の余暇時間の増大によるレジャー・レクリエーション需要の高まりは、大型テーマパークの建設など非日常的な場所における開発を促し、時には自然環境へ与える付加の大きなものとなっている。巨大技術は、高度経済成長を背景とした経済原理のもと、圧倒的な支持を得て現在に至っている。しかし、小さな技術、たとえば日常の生活圏内の環境整備等においては、トータルなマスタープランもなく軽視され、標準設計を画一的に押し込め進められている状況にある。われわれが社会生活を送る上で、圧倒的に長い時間を過ごすのは、身近な生活空間である。レジャー・レクリエーションの視点からも身近な生活空間を、今一度見つめ直し、非日常的なりゾートから日常的なりゾート(=市民りゾート)への価値意識の転換が求められる。

本論文では、阿南市の中心市街地周辺10km四方の津乃峯周辺地域を対象とし、実践されつつある公園整備を主とした日常身近な空間の環境整備計画「阿南市民りゾート構想」の事例をもとに、生活空間の景観要素の把握と課題を抽出し、整備の方向性や構想の情報戦略としてのサイン計画を中心に考察する。

2. 阿南市市街地周辺地域の景観要素

阿南市は、徳島市の南約20kmに位置し、人口は約58,700人(平成7年)で面積は、251.48km²、農林率が約80%と農村地域が大部分を占めている。

阿南市市街部の西側に隣接する津峯山の周辺には、「山の景」・「川の景」・「池の景」・「農の景」・「海の景」といった5つの景観要素を持った屋外の空間が存在する。これらは、いずれも中心市街地から概ね2～5kmの距離にあり、徒歩で30～60分程度、自転車では10～20分程度の所要時間で到達可能な場所である。

「山の景」は、市街地の南西側の津峯山(標高284m)と鍛冶ヶ峯(標高206m)からなる一周約15kmの山々からなる。津峯山頂には、津峯神社、岩窟群、陣ヶ丸遺跡などの自然、歴史的資源が多く存在する。古くから船人の厚い崇拝を集めてきた津峯神社や、山頂付近のシーケープ(海洞)である岩窟群など、阿南市ではこうした「山の景」に、「海の景」と関連するものが多く残っている。

「川の景」は、現在の阿南平野を形成した1級河川那賀川や津峯山の西側に南北に流れる桑野川を主要な景観要素とする。延長約112kmの那賀川は豊かな水量をたたえる阿南の母なる川で、夏の終わりには落ち鮎漁を楽しむ太公望の姿が多く見受けられる。桑野川も下流に農業用水用の堰があり、春先から秋にかけての農作業の間、川の水量も豊かである。

「池の景」は、ひょうたん池や宮の溜などの農業用のため池で、静かな農家のたたずまいのなかに点在する。池の水面は、「山の景」をバックに周辺の農風景を映し出し、日本の農家の原風景を彷彿とさせ、景観的な価値が非常に高い。「池の景」は、生活系として「山の景」と「農の景」をつないでいる。

「農の景」は、津峯山北側の那賀川と桑野川にはさまれた三角状の地域および市街地と海岸にはさまれた地域に広がり「山の景」とともに津乃峯周辺地域の大部分を占め、市街地周辺の緑の大きな供給源となっている。特に「山の景」に櫛状に入り込んだ

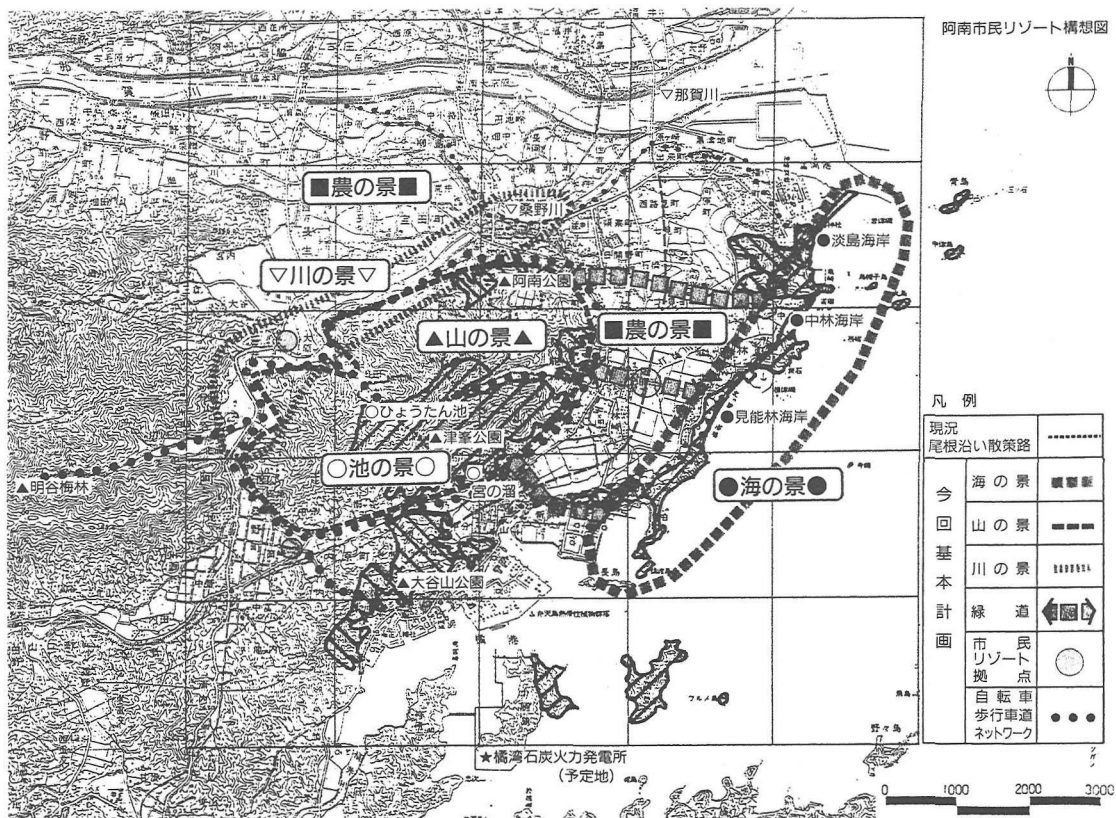
* キーワード 景観、公園・緑地、空間設計

** 建設材料試験所(770 徳島市鮎喰町1-57、TEL 0886-32-0111、FAX 0886-31-5438)

*** 正会員 徳島大学大学院(770 徳島市南常三島町2-1、TEL 0886-567350、FAX 0886-56-7351)

**** 正会員 工博 徳島大学工学部建設工学科助教授(770 徳島市南常三島町2-1、TEL・FAX 同上)

***** 正会員 阿南市土木課(阿南市富岡町トノ町12-3、TEL 0884-22-1111)



狭小な農風景は、「池の景」との相乗効果から景観ポテンシャルが高い。また、「農の景」は、5つの「景」のなかで唯一、他の何れの「景」とも地理的に接している。

「海の景」は、市街地の東方約3kmに位置する自然海岸であり、白砂青松の続く遠浅の良質の海水浴場である見能林海岸やその北側に続く中林海岸、淡島海岸がある。淡島海岸の目前には小島が点在し、「阿波の松島」といった趣である。これらの海岸は、室戸阿南海岸国定公園の北端に位置し、海洋性レジャーの拠点となっている。

3. 津乃峯周辺地域の4つの課題

阿南市街地を取り巻く津乃峯周辺地域は、自然的屋外空間に恵まれ、地域の持つポテンシャルは非常に高い。しかし、これが十分に認識され、活かされているかは疑問であり、地域の課題についてふれてみたい。

(1) 地域ポテンシャルの分断

現在の空間は、それぞれの場所ごとに行政・産業

などの細分化の中で個別に整備が進められており、市街地を一体として見た場合、空間相互のネットワークが弱く、かつ、地域イメージの創出に欠ける。マクロな視点から見れば、「山の景」と「海の景」の関連性が希薄である。

(2) 認知の低さ

市街地周辺にある自然的屋外空間の認知が比較的低い。津峯山周辺の「山の景」については市街地との地理的關係から東側の区域に比べて西側の区域はさほど認知されていない。これは、(1)で述べた細分化により個別整備が行われていることに起因すると思われる。西側の区域には、桑野川やひょうたん池等の景観ポテンシャル等の高い自然資源がある。周遊という点、そして市街地から自転車で10～20分程度である点を考慮すれば、西側の区域も取り込んだ津峯山周辺一帯を重視すべきである。

(3) 身近な屋外空間のマスタープランの欠如

阿南市第3次総合計画では、阿南市全域を視野にいたった大枠としての比較的広域の「阿南リゾート重点整備地区」のゾーニングが示されているが、この

下位に位置づけられるべき、市街地周辺の生活圏を対象とした、計画コンセプトを持った比較的小規模で日常身近な屋外空間のマスタープランが示されていない。

(4)「農の景」の過小評価

市街地周辺には近景域のすぐれた農風景が多く存在する。現在、余り評価される機会の少ないこれら「農の景」を積極的に位置づける必要がある。

このように、現状の生活空間は、細分化の中で分断され、本来持っている価値を十分に活用できていない状態にあるものと考えられる。

4. 阿南市民リゾート構想

日常身近な屋外の生活空間における、このような課題の解決を目的として、価値の高い景観要素を複合的に有している阿南市市街地の周辺地域において、「阿南市民リゾート構想」を提案した。

(1)構想の概要

本構想は、“日常身近な阿南市民リゾート空間の整備”を目指し、生活者自身による環境に対する認識の向上と、実際の体験を通して環境を楽しむことに計画コンセプトを置き、施策の提案と実践を行っている。構想におけるキーワードは、『日常身近』、『阿南市民のための』、『地域のポテンシャル』、『歩行・サイクリング』、『意識のデザイン』である。「阿南市民リゾート構想」の実現に向けて、まず何をすべきであるかを考えた場合、それは、身近な生活空間が生活者すなわち阿南市民にとってどうあるべきかに対する深い洞察力と理解を促し、それをいかに共有化していけるかということから始めなければならない。

(2)歩行・サイクリングの視点

「阿南市民リゾート構想」の、具体的な施策の一つとして歩行者・自転車道のネットワーク化や緑道の整備を提案中である。これらは、レジャー・レクリエーション需要のなかで、価値意識の転換による自動車優先の社会からの復権、すなわちヒューマンスケールな開発を目指している。

歩行やサイクリングは、健康の増進やスポーツとしての効用はもちろんのこと、多種多様な地域固有の環境情報を認識する手段として効果的である。環

境情報の収集は、移動と滞留の機能が不可欠であり、移動は環境情報の収集可能な範囲を広げ、滞留は収集可能な情報密度を高める。

(3)サイン計画

構想のコンセプト、「山・川・池・農・海の景」の景観要素、「阿南市民リゾート構想」自体の認知などを目的として、総合ネットワーク型サイン計画を進めている。

(a)総合ネットワーク型サイン計画の目的

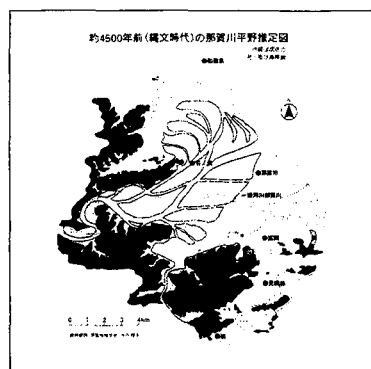
サインは、計画地単発のサインとしてでなく相互に関連性を持ったネットワーク型のサイン群として計画している。この目的は、①多種多様な地域情報の【発信と認識】、②時間的・空間的に相互に関連する地域情報の【連携】、③日常身近な空間に存する地域情報の【共有化】にある。

(b)サインの種類

サイン群は、その内容から計画地域全域の地域情報・資源を紹介した【エリアサイン】、個々の地域や地区の情報・資源を紹介した【スポットサイン】、市民と行政あるいは市民と市民の情報の交換を行う【揭示枠】から構成される。それぞれのサインには、地域や地区の情報・資源をモチーフとした【サインキャラクター】が登場する。そして、これらのサインデザインは、グラフィックデザイナーによりデザインの統一が図られている。

(c)スポットサインの事例

今回の総合ネットワーク型サイン計画では、サインによって地域の基礎的情報を提供する上で、環境教育的な配慮からエコミュージアムの視点を導入している。計画地の一つである阿南公園では、那賀川



スポットサイン：阿南平野の移り変わりを示すスポットサイン（縄文時代）

の堆積作用によって数千年に渡り形成されてきた阿南平野の変遷を①縄文時代、②紀貫之の時代、③江戸時代の3つに分けて紹介したスポットサインを木製デッキに埋め込み並べた。こうして、阿南のダイナミックな自然や歴史の移り変わりを相互に関連づけてサインで情報発信し、現地で実際に体験できる工夫をしている。

(d) サインキャラクター

サインキャラクターの役割は、地域や地区のポテンシャルの水先案内と各地域・地区の連携である。個々のサインキャラクターは、ホームグラウンドを有しており、市民はそのキャラクターをただでそのホームグラウンドが容易に認識される。これらキャラクターは、本来関連性があるにもかかわらず、交通アクセスの不便さなど物理的、社会的制約により希薄となった市民リゾート資源あるいは地域を空間的に連携させる総合ネットワーク型サイン計画のキープレイヤーといえる。



5. おわりに

本研究では、身近な生活空間について焦点をあてたもので、阿南市周辺の検討事例より明らかになったことなどを以下に示す。

(1) 身近な生活空間の景観要素

今回の阿南市の事例では、市街地部から身近な場所にある「山・川・池・農・海」といった景観要素の把握を行った。現地での観察や調査の結果、身近な空間の景観要素の価値は高く魅力的で、そして、それぞれの景観要素のいくつかは、連続であり関連していることがわかった。

(2) 現状での課題

阿南市の事例では、良好な地域ポテンシャルが十分に活かされていない。この空間整備的課題として、①行政・産業等の細分化の中で個別に整備が進められ地域ポテンシャルが分断されていること、②身近な空間に対する市民の認知が比較的低いこと、③比較的小規模で身近な屋外空間整備のマスタープランが欠如していること、④「農の景」を積極的に位置づける必要があること、などが考えられる。

(3) 阿南市民リゾート構想の提案

阿南市において、市民のための生活空間の環境整備計画として身近な生活空間に焦点をあてた「阿南市民リゾート構想」を提案した。そして、構想の推進において、総合ネットワーク型サイン計画などについて紹介した。